



山口調理製菓専門学校長 須内章雅  
Sunouchi Akimasa

## ○ 危険回避

私はそれなりの年数生きてきました。これからも生きていきます(何事もなければ…)。これまで幸いなことに特別大きな病気はしませんでした。しかし一歩間違えば死亡事故というような危ない目には数え切れないほど出会ってきました。今生きている子どもたちや学生たち、壮年に当たる人たちも含めて事故には会わない方がいいですね。前回号では雪や氷に気を付けましょうと少し記述しました。今回は私の失敗をいくつか紹介してみます。非常に照れくさいのですが、少しでも参考になれば幸いです。

一つ目、高校生のとき自転車通学をしていました。私の家は海より少し高いところにあります。毎日坂を下って海岸線を走って登校し、帰りはその坂道をカ一杯こいで足をつかずに登って帰宅するということを繰り返していました。ある朝、粋がって愛車(自転車)に飛び乗って坂道に向かいました。その時スタンド(斜め仕様のもの)を外すのを忘れていました。坂道は左右に曲がっています。車体を左に傾けたときそのスタンドがはじけて私の身体と自転車は反対の右側へ跳ね飛ばされました。柔道の「前受け身」をしたので頭は打ちませんでした。両方の手首から肘まですりむいてしまいました。

二つ目、自転車が趣味になっていた私は北海道を旅したことがあります。ある季節、夏休みの日数に限りがあったので東京からフェリーで釧路に向かいました。そのフェリーを追いかけるように台風がついてきました。私の上陸と同時に台風も近くに上陸しました。その日の宿を予約していたので仕方なく走り出しましたが、強風です。阿寒の山のほうに向かって走ると幸いなことに後ろからの追い風です。ものすごく楽をして山登りができました。しかしあるときから左折して進まなければなりません。自転車は横風には弱い! 大変な思いをしながら走っていると大きな音が左前方から聞こえてきました。ふと見ると直径が3mはありそうな大木が私めがけて倒れてくるではありませんか。その間は僅か数秒だったと思いますが、なぜかスローモーションで長く感じました。そのときに思ったこと「土産話の一つできたな。」というものです。直後に私の1m前に轟音とともに落ちてきました。その瞬間は不思議なことに怖さを感じませんでした。しかしそれからです。その後もまわりの至る所で樹の折れる音がします。そのときの方が非常に怖かったです。行かない(キャンセルする)勇気というものも大切ですね。



こんな樹でした。

三つ目、私の子どもが小学校に入る前後くらいの頃、家族でスキー場に行きました。まだ幼いのでスキーよりもソリ遊びですね。行く途中頃合いを見計らってタイヤにチェーンを巻きました。山の雪道を走ること比較的慣れていて私のチェーン装着は(自慢ですが)スムーズです。爽やかに運転していましたが、あるときヘアピンカーブに出会いました。ほぼ平らでスピードも出していませんでしたが、曲がるときに軽くブレーキを踏んだ途端、我が車は360度回転しました。幸いまわりには全く車も人も居ませんでしたので事なきを得ましたが、その後我が子からは何回となく「あのときは怖かった。」と言われています。ベテランでも油断大敵ですね。それからは極力エンジンブレーキを使っています。そういえば先月雪が降った朝、山道で真っ赤な乗用車が道沿いの溝に裏返しにひっくり返っているのを見ました。ひっくり返るだけならまだいいですが、谷に落ちたり対向車とぶつかったりしたら大変です。皆さん(私も)気を付けましょう。

## ○ 自校自費

今回のメニュー : オペラ

モントローの本田先生に指導していただきました。

